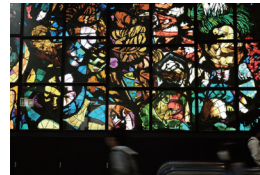


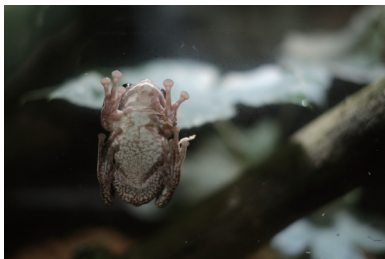
⑤ ドキュメンタリー写真集の雰囲気を再現した 新たなフィルムシミュレーション



POINT:1

ドキュメンタリー写真集の ような世界を再現

シャドウ部を締めることでメリハリのある陰影を表現。Velviaもシャドウ部は締まっているが、ほぼ同程度の黒締まりだ。加えて発色は抑えめ、PROVIAなどの記憶色とは異なる方向の発色傾向で、濁った色味となっている。この「荒廃」した雰囲気はドキュメンタリー写真集の色に近づけたもの。都会的な場所でのスナップ、ルポルタージュなどの、ドキュメンタリー的な写真にまずは使ってみよう。



POINT:3

生物を撮ってもドキュメンタリー的に

シャドウ部の締まりを活かして、ドキュメンタリー番組的に生物を撮るのもおもしろい。人気の猫なども、哀愁漂う雰囲気に仕上がる。



POINT:2

「荒廃」に似合う寂れたものを撮る

クラシッククロームの渋めの発色に似合う、寂れた風景、路地裏、古い建造物などは良く似合う被写体。人を写し込めば「人生」的なものも伝えられる。



XF18-135mmF3.5-5.6 R・F4・1/2500・ISO1600・クラシッククローム

クラシッククロームの 設計思想

フォトジャーナリストの「濁った色味で撮りたい」という要望に応え、X-T1グラファイトシルバー発売と同時に搭載された新モード（ファームアップで従来のX-T1にも対応予定）。これまでは「心地良い空気感の表現」を念頭に画質設計されていたが、「重厚」「渋さ」「重さ」など、荒廃を感じさせる雰囲気を表現するという、正反対の設計コンセプトだ。発色は抑えめ。シャドウ部もかなりの締まりがありメリハリがある。単純に「美しく撮れる」だけでは満足がいかなかった人には待望のモード。ドキュメンタリー写真集のような色味を、モニター環境でも完全再現している。得手不得手の差は激しいが、「表現」を存分に楽しめる。